

平成26年3月22日

自己評価による自己点検・学校関係者アンケートの結果を受けて
(世田谷区立八幡中学校 自己評価報告書)

I 分掌の課題と解決に向けての取組

1 教務

(1) 学習指導について

ア生徒の日常の授業の理解度と教職員の授業の工夫・改善への取り組みについては、肯定的評価が3年連続で80ポイントをこえている。「わかりやすい授業」については、生徒では83ポイントと高い数値となった。基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得について、今後も継続していく。

イ通知表の評価は納得できるについては、昨年度より肯定的評価がやや下がっている。生徒で69ポイント、保護者で72ポイントであった。今後も資料に基づき適正にまた丁寧に行っていく。

評価を適正に行っているにもかかわらず、納得できない生徒が少なからずいることは理解している。丁寧な説明を、また回数を重ね責任を果たしていく。

- (2) 学校行事について教員は意欲を大事にした指導をしている。生徒も意欲的に取り組んでいる。「楽しみにしている学校行事がある」については、生徒の肯定的評価が81ポイント、保護者が90ポイントと非常に高かった。時間的な制約が多い中で今後も生徒が自主的な活動をしやすい環境をつくり、意欲を伸ばす努力を重ねていく。

2 生活指導

- (1) 保護者、地域ともに「子どもたちについて問題となる行動が少ない」の肯定的評価が上昇した。生徒の「わたしは学校のきまりを守って行動している」という項目も上昇している。生徒自身の意識の高まりが行動に表れ、家庭と学校で共通した指導ができた結果であるのではないかと考えられる。引き続き連携してやっていきたい。

- (2) 「先生に指導されたことは納得ができる」「先生はいつも熱心に指導してくれる」では肯定的評価が80ポイント以上である。「先生は誰に対しても公平である」では低い評価である。生徒個々に合わせた指導を行っているため、生徒からは公平に見えていない部分もあるのではないかと考えられる。指導方法の違いがあっても、一貫した指導を通じ、理解を図りたい。また、教師が自分の話を聞いてほしいとの願望の表れとも考えられるので個々に応じたきめ細かい指導を引き続き進めていく。

- (3) 学校の安全性については、肯定的評価が低い。

校舎など、必要なところは区へ申請し、修繕していく。また、耐震工事は完了しているので広報活動を行い保護者の理解を得る。

引き渡し訓練など区の方針にしたがい実施し安全指導を進めていく。災害時での情報提供などは、ホームページや緊急メール等をうまく活用していく。目に見え

る形で情報提供を進めていきたい。

3 進路指導

(生徒)

1. 進路指導(キャリア教育)について

- (1) 将来の生き方や進路について考えさせられる授業がある。

肯定的評価は若干減少した。(75→79→75→78→70ポイント)

学年を経るに従って、肯定的評価が上昇している。(3年80ポイント2年76ポイント、1年49ポイント)

1年生の肯定的評価の低さが気になるので指導を丁寧に行っていく。

- (2) 将来の生き方や進路について先生と相談する機会が十分にある。

肯定的評価は大幅に増加している。(57→56→54→57→68ポイント)

学年を経るに従って、肯定的評価が上昇している。(3年80ポイント2年63ポイント、1年57ポイント)

1年生の肯定的評価の低さが気になる。1年生の場合教育相談などで担任と話す場合日ごろの生活などが話題の中心となり、進路とつながっているとわからないのではないか。進路学習においてそのような事もキャリア教育に含まれていることを指導していく。

- (3) 進路について十分な情報提供

肯定的評価は80ポイントと高い。

(保護者)

1. 進路指導(キャリア教育)について

- (1) 子どもに将来の生き方や進路について考えさせる指導が充実している。

肯定的評価はおおむね70ポイントをこえている。(64→75→72→76→73ポイント)

- (2) 進路について十分な情報提供

肯定的評価はおおむね70ポイントをこえている。(57→65→67→71→76ポイント)

- (3) 進路について保護者が相談する機会をもっている

肯定的評価はおおむね70ポイントをこえている。(64→71→71→73→74ポイント)

- (4) 先生は親身になって進路の相談にのっている

肯定的評価は70ポイントを下回っている。(55→68→60→62→63ポイント)

中学校では進路相談の場合、最悪の想定をして相談を行うため、生徒、保護者の希望と違うアドバイスになる場合がある。このようなとき概して親身に相談にのっていないと低い評価になる。丁寧な相談を心掛けていき保護者の理解を得られるようにする。

Ⅱ 学年の課題と解決に向けての取組

1 年

(1) 学習面

現 状：学習習慣がまだ身についていない生徒が多い（私語が多い・忘れ物が多い）。

集中力のなさ、学習に対する意欲の不十分さから来ているものと思われる

改善策：日頃の生活から努力する姿勢や、正しい学習習慣を示し続ける必要があると思われる。今後も継続して粘り強い指導が必要。

(2) 生活面

現 状：忘れ物、時間など基本的な生活習慣が身についていない生徒が多い。

自己中心的な考えの生徒が、全体の雰囲気に影響を与えている。

改善策：日頃のその場での指導とともに、その都度考えさせることが必要。

注意するだけでなく、望ましい生活態度をこちらから示していくことも必要。

全体だけでなく、個への指導も必要だと思われる。

(3) キャリア教育（職業調べ・職場訪問）

成 果：事業所からは全体として高い評価をいただいた。

職場新聞は全員がPCで打ち込み作成することができた。

課 題：当日までの指導をよりていねいにやる必要がある。

社会性の足りなさを感じたが職場訪問を行うことにより成長を感じられた。

(4) 学年行事（移動教室・レク大会・百人一首大会など）

成 果：移動教室は、お互いの関係づくりの場となった。親睦を深められた。

レク大会・百人一首大会はよくできたと思う。ある程度生徒主導ででき、リーダーも育ってきた。

課 題：今後も「自分たちでつくりあげる」という気持ちを促す必要がある。

(5) 学校行事（運動会・学発）

成 果：はじめは意欲もまとまりもなかったが、最後はまとまってできた。

課 題：中心となる生徒はもちろん、周りの生徒の成長を期待したい。

(6) その他

成 果：教員がていねいに対応してきたため、生徒たちとの信頼関係を築けたように思う。

課 題：個別の指導が必要な生徒や、規範意識が低い生徒がいるため、今後も粘り強く、心に訴える指導が必要である。

2 年

(1) 学習面

成 果：授業規律はきちんと守られている。生徒たちも守らなければいけないと理解している。

課 題：学習習慣の定着の度合いに個人差がある。（家庭学習など）
特別支援など個別指導で学力の向上をはかる。

(2) 生活面

成 果：大きなトラブルはないが、小さなトラブルはいつおきてもおかしくない。

式の準備などは自主的に仕事を探すようになった。

課題：生徒個人の判断や自主性を重んじながら指導をしていく。

(3) 進路指導

成果：職場体験では事業所からは全体的に高評価をいただいたが、取り組み具合は個人差があった。

高校訪問授業ではほぼ全員が意欲的に取り組み、高校の先生からも高い評価を得ることができた。卒業後の進路についても考える生徒が増えてきた。

課題：早い段階で進路指導を行い、進路だけでなく授業に取り組む意欲を高めていく。

(4) 学年行事（立青式・河口湖移動教室・レク大会・百人一首大会など）

成果：大変だったが、意見文を書くことで文章力がついたと思う。

実行委員会が積極的・自主的に取り組むことが定着してきている。

移動教室では上級生として1年生をリードすることができた。

多くの生徒がさまざまな活動に意欲的に取り組み、充実感を体験できた。

課題：まだまだ自分たちの輪の中でしか取り組めていないので、もっと輪を広げて、学校全体のことを考えて行動してほしい。

3 年

(1) 学習面

成果：1・2年次に比べてだいぶん学習習慣が身についてきた。また、学習習得確認調査の結果は各教科とも平均点は高い。（上位の生徒も少ないが下位の生徒も少ない）

落ち着かなかったり、ノートがとれない生徒がほとんどいなくなった。

(2) 生活面

成果：忘れ物、提出物の期限など基本的な生活習慣が身についていない生徒が若干いるが全体的には改善されてきた。

自己中心的な考え方も少しずつ改善されてきている。

(3) 進路指導・キャリア学習

成果：自分のことと自覚して取り組める生徒が多くなってきているが、「保護者が理解していない」「塾の指導通りで自己分析ができていない」と多少課題が残っている。

(4) 行事

成果：最上級生という自覚をもって、熱心に、楽しみながら取り組んでいた。

「自分たちで作り上げる」という意識を持って活動できていた。

C組

(1) 学習面・生活面

成果：比較的落ち着いた環境の中で授業に取り組ませることができた。

- ・多くの行事で一定の成果が見られた。演奏や作品完成度など、例年並みの仕上がりで発表できた。
- ・学習ボランティアの支援で、買い物学習、調理実習、校外学習などを安全に、より手厚く、充実した内容で実施することができた。
- ・ＩＣＴの活用、拡大グループ授業の実施、新聞などの作品発表会や教科の組み合わせなど、生徒の実態に合った授業を行い、生徒を授業に集中させ、情操面やコミュニケーション能力を高めた。
- ・産業能率大学、保育園などと園芸の交流ができよかった。

課 題：生徒のパニックの対応、保護者対応などの課題は引き続いている。
 講師の先生にその日の生徒の状況伝えきめ細かく対処していく必要がある。
 学識経験者を招いて教員の研修を充実していく。

Ⅲ 学校の課題と解決に向けての取組

1 地域とともに子どもを育てる教育

- (1) おおむね高評価だった。今後もさまざまな機会を通して広報活動を図っていき地域とともに子どもを育てていることを発信して理解していただく。

2 信頼と誇りの持てる学校づくり

- (1) 学校運営・学校経営に関して、教員の肯定的評価は高い。さまざまな教育活動に対し、今後も迅速に対応を進める。
- (2) 教職員の相互の関係など、肯定的評価は高い。犯罪防止の取り組みが若干少ないが、それぞれに具体的な対策の検討を続けて安全な学校づくりを進めていく。